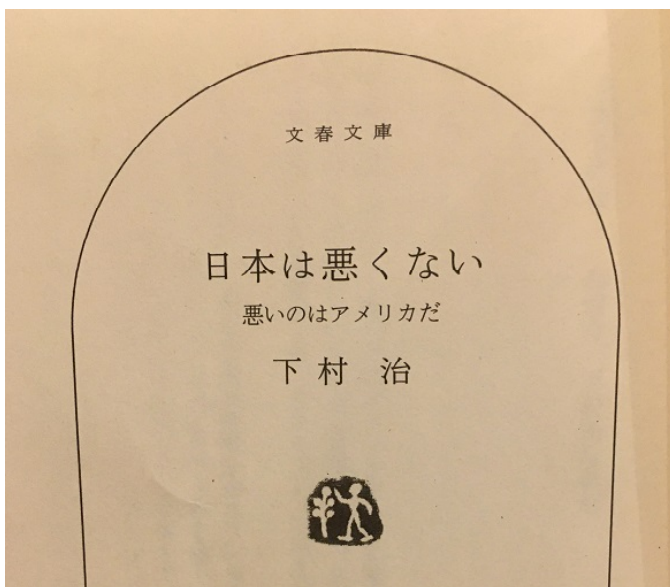


平素は、弊社商品にお取り組み頂き、  
まことに、ありがとうございます。

月間通信 9月号をお送り致しました。

何卒、よろしくお願い致します。



何だか、とてつもなく長い1年のような気がして来ました。私たちの間で2月のSMTSは手を消毒しながら出展出来ましたが、3月のFOODEXは中止になりました。元々東京五輪は、『それどころではなく』中止になると、一昨年に聞いていましたので『この事ね』と思うようになったのが3月でした。当初は、スカイツリーにでもミサイルが飛んで来るのかなと馬鹿なことを考えていました。

ちょうどその頃、何の拍子か忘れましたが net 上でこの画像の著者の文が引用されていたのに出会いました。修飾の無い極めて端的な言葉が却って主張の正しさを物語るような筆致で私の好みの文章でした。

同時に出張機会も減りましたので読書の時間も激減しましたが、この本を読み始めてすぐに今回の騒動は何も今に始まった事ではなく、充分に1980年代頃

から一筋の流れのように時代の行き着く結果だと思いました。

本の内容は、レーガノミクスと呼ばれる時代の米国の輸入超過の問題で、そう言えば当時貿易摩擦ということで随分話題になっていました。経済の問題としてみ捉えると著作名のように「米国が悪い」と刺激的になりますが、もう少し広く見ると別に米国は悪くなく、むしろ被害者のようにも思えてしまいます。この時代から更に50年以上遡る頃から世界は一つの勢力により導かれているような気がします。経済の成り行きもそのシナリオの元に進んでいて、当時を振り返ると故田中角栄氏が日中国交復活を果たして失脚した後、キッシンジャーなる人物が毛沢東と周恩来を電撃的に訪中して、今日の流れを模索したような気がしています。

土台無理な話しです。国内で製造することを止め世界中から品物を買って、消費し、いずれ空手形になる国債を発効して支払いに充て、一方では実体のない金融で経済を膨らませて世界中からマネーを集めるなど、何かの意図が無ければ有り得ない事です。そのマネーの行き着く先を追えば其処がリードしている事は明らかになると思います。

しかし問題は、どこが、誰がという事ではなく、それはあくまでシナリオの話であって、踊っているのは私たち自身だと思います。

2008年のリーマンショック時に、税金を使って救済した米国首脳が「次の救済は無いよ」と発言していたように、盛り上がるだけ盛り上げておいて、さっと梯子を外される国の人たちも堪ったものじゃないと思います。

未だ、未だ踊らされている感のCovid-19は各国の経済停滞を促し一気に梯子を外されそうなか、中国と日本だけが少し違った様相を呈しています。

何と中国は GNP が前年対比 100%を超えて来たそうです。60%強に落ち込んでいる米国が、対中国に意地悪すればするほど、中国は貿易通貨のドル離れや、内需拡大など、健全な形に近づいていますので、壊して行かれる米国と創り上げられていく中国と、まるでどこかで聞いたかのようなスクラップ&ビルドの体を為してきました。

日本はそこそこのマイナスですが、相変わらず世界では変なポジションで、これからは世界のお手本になるような気がして来ました。どう考えても国債の 100%を国内で消費している国はこの国だけで、とてもその姿は『健全』な気がします。大元に国民の地道な努力で生産力を上げ、先のレーガノミクス期に莫大な輸出超過を貯め込んだ結果に支えられているのかもしれませんが。

ところが、2016 年訪日したバーナンキ前 FRB 前議長が羨ましがったという「日本はいくらヘリコプターマネーを投下してもハイパーインフレにならない世界唯一の国」は、ふたつの要因に支えられているように思えます。ひとつは中央銀行＝日銀株の過半数を同国政府が所有している事、もうひとつは発行する国債の 100%近くを自国で消費している事の 2 点に於いて世界唯一の国である特異性です。

とりあえず世界唯一の国なので特異性としましたが、この事自体はとても健全な状態と言えます。今月のテーマのレーガノミクスの不健全さが、深読みは別として米国を破壊し、一気に世界覇権国から撤退させ、健全にするための Covid-19 だとすると、前出の FRB は破綻するか危機に陥り、日本同様米国政府がその株の過半数を持ち、また中国から米国債を全て買い戻す必要があります。

そのようになって初めて羨ましく思った日本と同じ状態になるので、これはかなりの長期戦になりそうな気がしています。2009 年頃だったと思いますが当時の国務長官ヒラリー・クリントン女史が出した教書に、地球を三分割統治する計画が出ていましたので、これ以上物質的に成長なき時代に入った対応策として、つまり走り方も上りと下りとは、まったく別物のように経

済も然りで、別な体制が求められるのかも知れないと思っています。

モノの消費が進まなくなり、それでも経済を拡大しようとするれば実体の無い金融に活路を見出したことも理解できなくはありませんが、所詮物を生産して生み出す経済ではありませんので行き詰まりも早く、いよいよ終焉を迎えようとして、そのリセットの為の騒動だとすれば、スクラップが済んだ後のビルドはどのような世界観になるかの読みが、今後の私どものビジネスの方向を決定する事になります。

私は希望も含めて、奪い合う経済より分け合う経済が主流になるような気がしています。その場合に分け合う相手が問題となります。大きな成長は無いけれど、分け合う者同士が協力する相互扶助的な、同じ価値観を持つ安定した経済圏の構築が出来て行くような気がしています。政治的な事柄は別として、どういう世界になるかイメージは出来るのですが、上手く説明できません。説明できませんが、今まではすべてお金で解決して、大樹の下に平和と繁栄を享受してきた日本ですが、これからは自力更生、我が道を行き、世界に貢献する時代の幕開けで、それこそその能力を自ら試し、世界が模倣する多極主義的な世界構造下に於ける日本の役割を構築すべきだと考えています。

それなりの高度な文明と共に 1 万年ほど暮らした縄文時代から世界に飛散し、またこの列島に回帰した時期は色々ですが、現在この地に暮らす者が蓄積したあらゆる科学技術は世界のトップクラスにあると思います。作る必要は無く、いつでも核弾頭を作る技術水準の存在を見える状態にするだけで、軍事的な抑止力保持は可能です。また和を貴ぶ資質も世界に誇れるものと思います。成長なき時代は奪い合う戦いの時代でもありますが、これも歴史の流れの筋道だと思え、子供の頃に憧れたスイスのような中立国を目指して、私はこれからの 5 年間を楽しみに迎えます。

有限会社アルファー  
吉田清一郎